

独立行政法人航海訓練所の平成27事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が着実に達成され、国土交通大臣による平成27年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行われなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	27事業年度評価における主な指摘事項	平成28及び29年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<p>I - (1) 航海訓練の実施</p> <p>(a) 三級海技士養成</p> <p>○英語力の評価方法として、一般大学でも利用されているTOEICを導入してはどうか。</p> <p>○専門用語等の海事英語の基礎を固めることは、一般英語に興味を持たせる上で有効。また、様々な教育レベルの者への教育が必要である。</p> <p>(b) 四級海技士養成</p> <p>○狭水道における船橋単独当直訓練については、実習の効率化を重視するあまり、実施されず、複数での主体当直となっている。</p> <p>(j) 安全管理の推進</p> <p>○安全管理の推進についてはKPI (*1)を導入するなど、目標の達成度合いを計る定量的な評価指標が必要と思われる。 *1 KPI：重要業務評価指標 (組織や業務の目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと)</p>	<p>○乗船実習中のTOEIC受験は困難であるが、練習船では、公益財団法人海技教育財団発行の「海の基礎英会話」を使用したリスニング及び記述式テスト等を実施し海事英語力の評価を行っている。 なお、商船系高専においては、独自に卒業時におけるTOEICスコア向上を目指す英語力向上プログラムが取り組まれている。</p> <p>○航海当直の引継や出入港部署配置の号令等を英語にて実施し、コミュニケーション能力向上を図っている。また、「海の基礎英会話」を乗船時に全実習生へ貸与し自学自習に活用させている。</p> <p>○狭水道における船橋単独当直訓練については、多科多人数教育のため全実習生へ均一な実船訓練を十分に提供することが困難なため、実習生の習熟度に応じて実船訓練と操船シミュレータ訓練を併用し、内航船の常用航路となる沿岸航海を中心に主体当直を全実習生に対して実施している。</p> <p>○評価対象となる指数ではないが、年度計画において業務上の「重大事故発生0件を目指す。」と目標を掲げ、不適合、ヒヤリハット等報告の推移を見つつ安全管理の推進に努めている。</p>

業務運営の効率化に関する事項	なし	
財務内容の改善に関する事項	なし	
その他の事項	なし	